研究ノート

大阪観光大学における
新型コロナウイルス感染症に対する学生の意識調査アンケート

――大阪観光大学の新型コロナウイルス感染症対応を踏まえて――

Attitude survey questionnaire of the student
for the new Covid-19 infectious disease in Osaka University of Tourism
- Based on new Covid-19 infectious disease correspondence of Osaka University of Tourism -

小森　三恵*・白神　昌也**
KOMORI Mie・SHIRAKAMI Masaya

This report carried out the attitude survey of the student in the corona evil and analyzed it. One hundred and sixty-eight students responded to an online questionnaire concerning their activities during the state of emergency declaration in 2020 and attitudes to the COVID-19. The respondents mostly spent their time resting, studying, or self-reflection at home. Over 88% of the respondents increased awareness as a member of society, and some reported that they practice protective behaviors to the COVID-19 for other people. We also found that 77% of respondents expected social shifts, including online systematization. 50% of the respondents reported that they feel anxieties about their future issues, such as finding employment in the tourism industry. On the other hand, 24% think of the current situations by COVID-19 as good opportunities and experiences.

キーワード：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）、感染症対応（infectious disease correspondence）、
意識調査アンケート（attitude survey）

1.　はじめに

新型コロナウイルス感染症（COVID-19、以下新型コロナとする）により、全世界的に大きな影響が生じ、現在でもその影響は多方面に及んでいる。我が国においても社会的・経済的にその影響は継続しており、様々な対策がなされているが収束の見込みは不透明な状況となっている。

新型コロナは教育の場にも大きな影響を与えている。多くの大学ではリモート中心の授業が行われており、大阪観光大学においても 2020 年度前期は、一部の授業を除き原則としてリモートで授業が行われた。
後期に入ってからは、原則として対面授業が行われてきたが、感染者数の増加に伴いリモート授業へ移行することとなった。

本稿では、大阪観光大学が新型コロナの影響下どのような対策を講じてきたのかをまず記述する。次にコロナ禍において学生たちがどのように考えたのかについてアンケートを実施し、その結果を記載するとともに若干の考察を行う。

2.　大阪観光大学における新型コロナへの対応策

大阪観光大学（以下本学）が新型コロナ対策を実際に開始したのは、2020 年 2 月 3 日に実施された卒論発表会の時である。当初は全学的に実施される予定であった発表が、規模を縮小して全員マスク着用のもと実施された。この時期は、まだ国内感染者は累計 16 名であった。

この後、大学の主要行事は卒業式（3 月 18 日）の挙行であったが、学外に会場を設けて行われる予定が、急遽学内においてゼミナール単位で各教室で行われた。この時期の国内感染者は累計 873 名（前日より 44 名増加）

*大阪観光大学国際交流学部／認知心理学　**大阪観光大学観光学部／公益事業論

であった。

2020 年度に入ってからの本学の対応策についての概略は以下の通りである。

（1）教学部門での対応

教学部門における対応については、教務委員会と学生委員会とで役割分担を行って実施した。

1）教務委員会での対応

教務委員会では、主に授業の実施についての対応がなされた。本来の対面授業が行えないことになったため、限られた期間で対応する必要があったが、教職員一丸となり大きな問題が生じることなく対応がなされた。

主要な対応策としては以下のとおりである。

・単位取得に必要な授業時間の確保と授業時間および授業日程の再構成

・リモート授業開始に備えた研修会とリモート環境の整備、サポート体制の構築

・リモート環境が整っていない学生への対応

・帰国中の留学生へのリモートでの対応

その他、学生の学習意欲を喚起するための様々な対応がなされた。

2）学生委員会での対応

学生委員会では、主に学生の生活面についての対応がなされた。コロナ禍における学生生活は、主に金銭面において大きな影響を受けたため、そのサポートとなる給付金等の選考についての対応策が急務であった。

また、入国制限に伴い留学生への対応も増加し、その都度適切に対応を行った。

さらに、新型コロナへの感染に備え、国の指針に沿った形での学生対応策を策定した。

（2）入試広報部門での対応

入試広報部門では、2020 年前期においては主に本学志願者へ向けた広報活動での対応がなされた。

通常、オープンキャンパスや学校見学等、本学において対面で実施される行事は実施困難となり、7 月末まではリモートによる対応を行った。8 月以降には感染予防対策を徹底した上で予約制での対面型オープンキャンパスを実施した。

入試自体の実施については後期に行われることになるが、コロナ禍を見据えた日程調整、振替日設定、資格要件の緩和等の対応が事前になされることとなった。

（3）就職支援部門（キャリアセンター）での対応

就職支援部門では、キャリアセンターが対応を行った。当初は毎週火曜日を中心に様々なイベントを実施し、在学生への就職活動のサポートを行う予定であったが、リモート授業へ移行したために大半が中止や延期、規模の縮小となった。

そのため、学内ポータルサイトで就職関連の情報提供を適宜行い、学生へのリモートによる様々な支援を行った。

（4）事務部門での対応

事務部門での対応は、主に授業料の納付についての業務と、政府等から適宜発信される対応指針についての本学向けの対応策の策定であった。

特に、金銭的に困窮した学生に対する授業料の延納や分割への対処などについて、非常に多くの労力が割かれた。

また、学内外への情報発信についても適宜行い、部署別にも学生に対して適切な対処を行った。

図書館では、感染防止のために直接の来館は禁止となったが、事前に必要な図書を所定の手続きで申し込むことで、学生が必要とする書籍の貸し出しに対応した。登校できない学生に対しては、郵送による図書の貸し出し・返却も行った。

国際交流センターでは、通常の留学プログラムが実施できなくなったため、オンライン留学やオンライン海外インターンシップ等が行われた。

以上、本学では各部署別で対応するとともに、教職員一丸となって、新型コロナへの対処を行った。

ただ、出来うる限りの対処策は実行されたが、学生にとって十分満足が出来るものであったのかは、学生たちから意見聴取しなければわからない。そこで、コロナ禍にける学生達の現状について以下のアンケートが実施された。

3.　コロナ禍の心と行動に関するアンケート調査

（1）調査の目的

新型コロナは学生生活においても様々な影響をもたらしたと考えられる。その中で、本学学生がどのように考え、行動していたかについて把握することを目的にアンケート調査を実施した。

(2) 調査方法

1) 調査期間

調査は 2020 年 9 月 4 日～30 日に実施した。

2) 調査方法

大阪観光大学の学生を対象に Google フォームによるオンライン調査を実施した。フォームのリンクは学内ポータルサイトに掲示し、任意かつ無記名式で回答を求めた。

3) 回答者

調査対象者は大阪観光大学の在籍学生 922 名(2020 年 9 月現在)であり、そのうち 168 名から回答が得られた。回答率は 5.49%であった。

4) 調査項目

電通育英会(2020)による「コロナ禍に遭遇した大学生たちの心と行動」の全 14 項目を使用した。

(3) 結果と考察

1) 外出自粛期間中の過ごし方

「Q1.外出自粛の期間中、どのような時間が増えたか」に対する各項目の回答率を図 1 に示した。最も回答率が高かった項目は「睡眠」で 64.5%、ついで「勉強」50.0%、「映画・ドラマ等を観る」42.2%となった。電通育英会（2002）の先行調査では上位（24. 8%）であった「読書」は本調査では回答率が低く、1.2%にとどまった。

より具体的な内容について、「Q2.自宅で過ごす時間で考えたこと・学んだこと」をたずねたところ、52 名から自由記述回答が得られた（表 1）。回答をカテゴリー分類したところ自己の内面について記述した「心に関すること」が 15 件と最も多かった。次に、「勉強」の具体的内容が 9 件、オンラインでの授業やコミュニケーションについて触れた「オンラインに関すること」が 6 件と続いた。また、電通育英会（2020）ではカテゴリー化されていなかった「お金」「趣味」「家族」に関する記述もそれぞれ複数観察された。コロナ禍での外出や接触の制限により、改めて自己の内面と向き合ったり、新たな知識を得たりするための時間的・心理的余裕が生じていたことがうかがえる。

2) コロナ禍で大切だと感じたこと

「Q3.コロナ禍を受けて大切だと感じたことに近いもの」の回答率（図 2）においては、「お金」が最も高く 65.1%であった。次点で「感染予防」48.2%、「家族や友人とのつながり」41.6%と続いた。本学においては留学生も含め家族と離れて暮らす学生が多く、日々の生活に関する現実的な問題についての関心が高かったと考えられる。

3) 社会の一員としての自覚と行動

「社会の一員」としての在り方について、「Q4.今回の事態を受けて社会の一員としての自覚はどう変化したか」とたずねた結果、「自覚が高まった」54.2%、「まあまあ自覚が高まった」34.3%となった（図 3）。つまり、88.5%の学生が意識の変化を認めていた。

「Q6.社会の一員として自覚が高まったことで、何か行動を起こしたか」という問いについては、18.1%の回答者が「社会に対して具体的な行動を起こした」と答えた（図 4）。これは、先行調査（電通育英会　2020）よりも 11.4 ポイント高い結果であった。また、「今後の為に目的を持って学び始めた」は 36.1%、「行動には至っていないが考えた(考えている)」は 19.3%であり、本調査では 5 割以上の学生が行動のための準備段階にあることが示された。

さらに「Q7.社会の一員として行動したことと・学んだこと・考えたこと」を具体的に示すよう求めたところ、27 件の自由記述回答が得られた。主な回答例を表 2 に示した。社会のための行動の記述では、14 件中 9 件がマスク着用や外出自粛などの感染予防の実践に関するものであった。さらに、これらの予防は自己のみならず家族や周囲の他者のためであるという記述もみられ、社会的意識の高まりが観察された。

4) 今後の社会についての未来予想

コロナ後の社会について「Q8.この事態が終息した後の社会にはどのような変化があると思うか」とたずねた。その結果、「大きく変化する」が 43.4%、「多少変化する」が 34.3%となり、合わせて 77.7%の回答者が社会の変化を予想した（図 5）。

Q8 において「大きく変化する」「多少変化する」と予

測した回答者に対して、具体的に予想される変化の内容について自由記述を求めたところ、31 件の回答が得られた（表 3）。カテゴリー分類の結果、経済問題や社会システムの変化など「社会情勢」に関する記述（11 件）や、授業や働き方の「オンライン化」に関する記述（10 件）が多く、さらに「心理的影響」（6 件）や「衛生管理」の変化（4 件）についての指摘も見られた。

5）自らの将来への心境

「Q9. 今回の事態を受けて、将来を考えたとき、自分の気持ちと近いものを選択してください」という問いに対しては、「不安に思う気持ちが強い」の回答率が最も高く 51.8%であった（図 6）。また、「チャンスだと思う」が 24.7%、「これまでとあまり変わらないと思う」が 13.3%であった。これらの心境に至った理由をたずねたところ（Q10-12）、表 4 に見られるような自由記述回答が得られた。

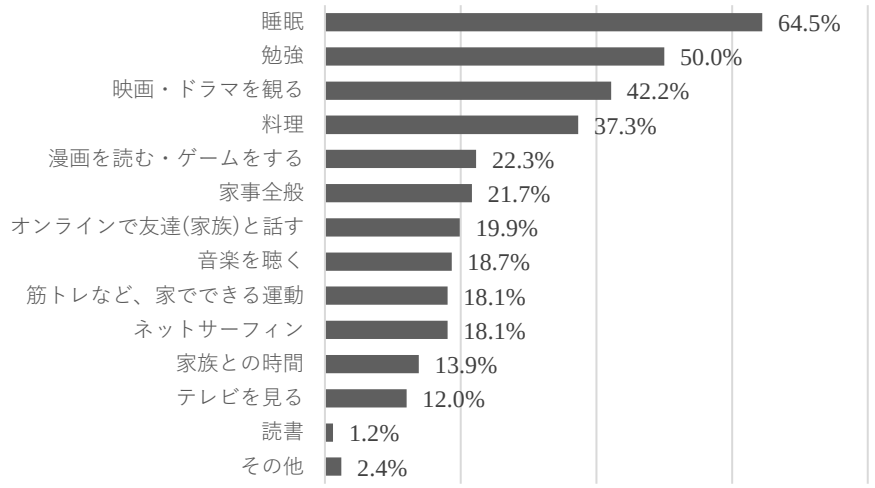
カテゴリー分類を行った結果、「就職」に対する不安を述べたものが最も多く（24 件）、現在直面している就職活動だけではなく、観光業界の将来についての懸念も観察された。一方で、「社会情勢」の変化や、「学び」の機会の増加をチャンスであると考え、コロナ禍自体を経験としてポジティブにとらえる記述も見られた。「変わらない」と考える理由としては、すでに決めている目標を継続することや、あまり考えこまずに目の前のことをこなすことを重視する傾向が伺えた。

6）危機的事態を乗り越える能力とは

今回のような危機的事態を乗り越えるために必要な能力（Q13）について、各能力の回答率を図 7 に示した。最も回答率が高かった能力は「楽しみを見つける力」52.4%であった。ついで「多様な考えを受け入れる受信力」が 48.2%、「チームワーク」24.1%となった。これらの 3 能力の順位は、電通育英会（2020）による先行調査と同様の結果であった。

7）大学生から大学生へ、つなぐエール

最後に、「Q14.この苦難を乗り越えて、明るい未来に向かって行くために同じ大学生の人たちにエールを送り合いましょう」に対して寄せられた自由記述回答を表 5 に示した。

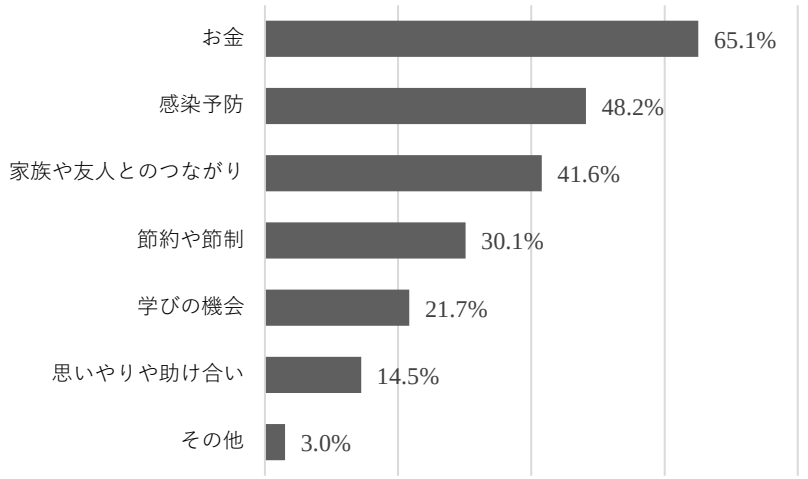


図－1　外出自粛期間中の過ごし方（複数回答・回答者数：166）

注）4 つ以上回答している 40 名を含めて分析対象とし、項目ごとに回答率を算出した。

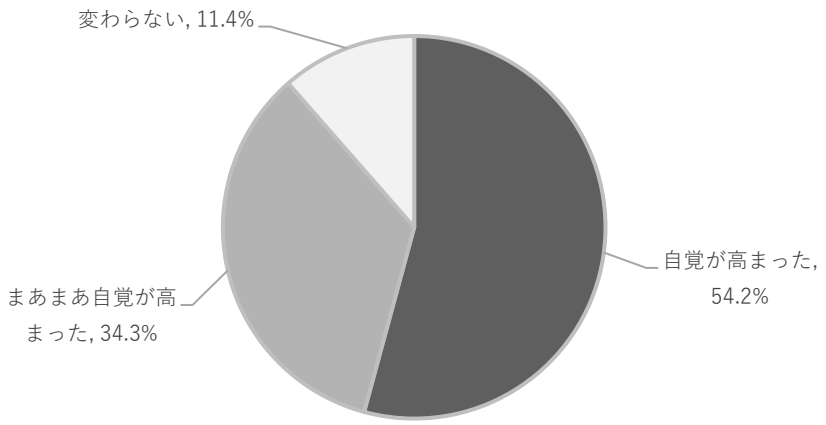
表－１　自宅で過ごす時間で考えたこと・学んだこと（回答者数：52）

カテゴリー	件数	回答例
勉強	9	撮影、ps、AI など興味があることを学びました。
健康	1	何より健康が一番重要です。
料理	5	新しい料理を試しました。
読書	2	勉強の時間や自分の時間が多くなったと考えています。色々な新知識を身につけられました。日本語や観光専門や、本を読んでたくさんの生活の知識も取得できました。
オンライン	6	オンラインで人と接する機会が増えたことで逆に直接会って話すことの重要性を実感した。
家事	3	掃除にはキリがないことに気づきました。
心	15	当たり前に出来ていた事が出来なくなる事に対する恐怖や不安は時々ありました。行動する事、人と接する事に対して過敏に反応してしまう事も多々ありました。ですが、こういう状況だからこそ出来るような事や挑戦する事が出来たこともあります。
家族	3	家族とこんなに話したのはいつぶりだろうかと感じたので、もっとこれから話そうと思った。
趣味	3	新しい趣味を見つけた。
お金	5	お金を節約する。

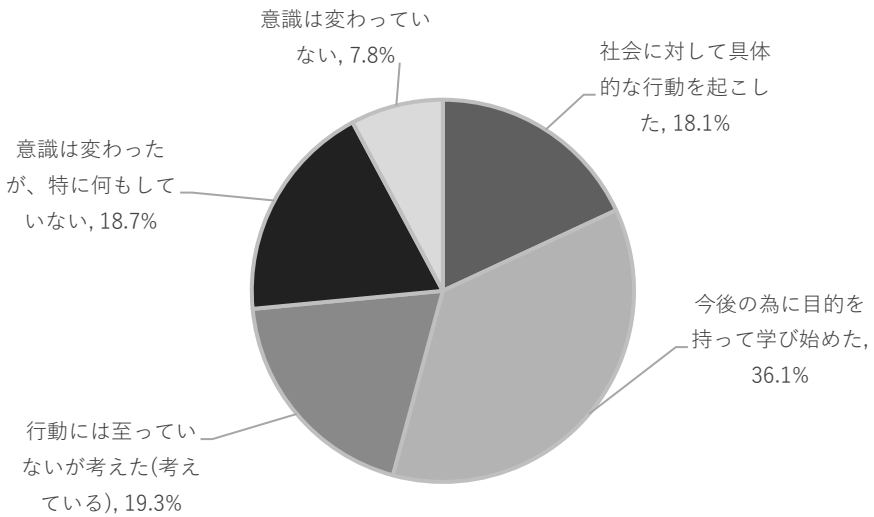


図－２　コロナ禍の中で大切だと感じたこと
（複数回答・回答者数：166）

注）3 つ以上回答している 42 名を含めて分析対象とし、項目ごとに回答率を算出した。



図－3　「社会の一員」としての自覚の変化
（回答者数：166）



図－4　「社会の一員」としての行動の変化
（回答者数：166）

表２　「社会の一員」として行動したこと・学んだこと・考えたこと（回答者数：27）

カテゴリー	件数	回答例
行動したこと	14	自分がコロナにかかってると仮定し人にうつさない行動。 運転免許を取って運転するようになり、人の命を預かる責任を持つようになった。
学んだこと	4	この今回で色々なことが勉強できました。まず、衛生管理です。自宅だけじゃなくて周りの住んでいるところでも大切です。感染防止対策で自分の命だけじゃなくて周りの人の命の考え方です。 目標をもてた。そのためにする行動がわかった。
考えたこと	9	我のためでなく、他の為にも行動を自粛することが今回大事なんだと感じた。 困っている人などを見かけたら助けてあげる思いやりが大事だと感じた。

注）一部、回答内の誤字を修正した。

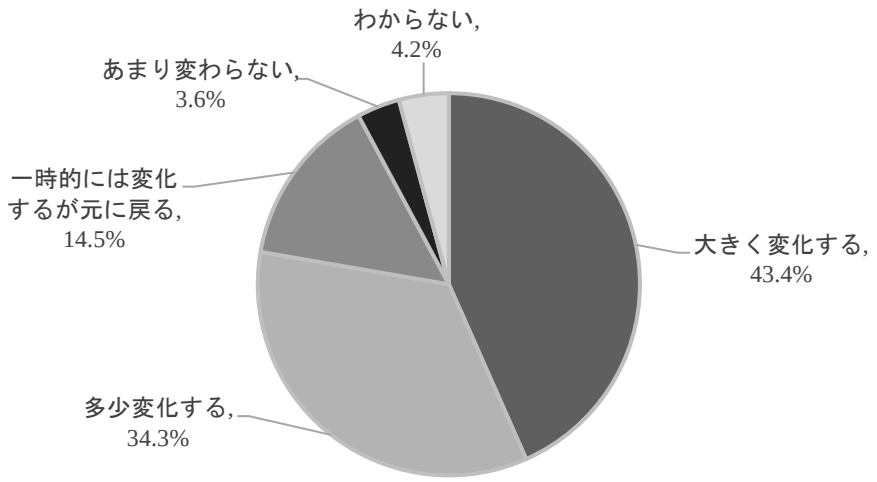
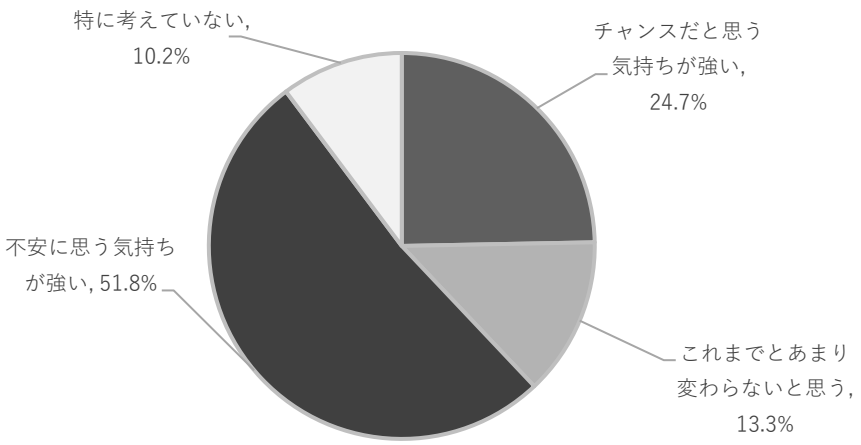


図５　今後の社会についての未来予想
（回答者数：166）

表－３　予想される具体的な変化（回答者数：31）

カテゴリー	件数	回答例
社会情勢	11	コロナの影響で、国々の経済が崩壊すると思います。回復の為に、数年がかかると思います。 以前にまして、より一層就職難に陥ると考える。現に、ホームレスが増加していると聞いた。飲食店の 80%が 5 年以内に潰れると聞いたこともある。
オンライン化	10	わざわざ学校や会社に行かなくても在宅で行えることがあるというのがわかったのでそれがこれからも取り組まれるのではないかと。 テレワークなどで人と直接、接する事が少なくなり、AI 化も同時進行で進んでいる。それによって人間本来の愛や優しさなどが薄れていくと考えるので逆にそれを出来る企業が価値を持っていくのではないでしょうか。
心理的影響	6	もしコロナの薬の発明が出来ずにこのままで戦いながら生活していくならすごく生活のありかたが変わると思う。単純にどこにもいけなくなり、性格まで変わる人間関係がどういう風に変わるか気にならないですか？
衛生管理	4	コロナが収まってもマスクをつけることが当たり前の生活になりそう。

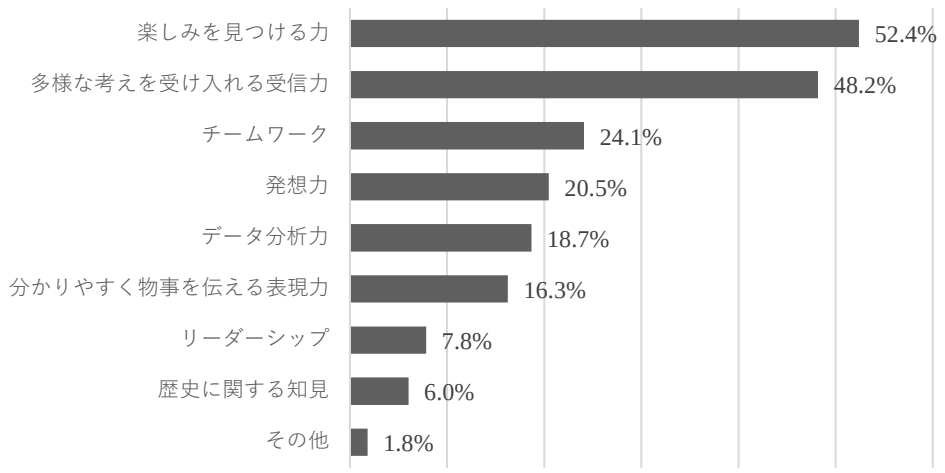


図－６　自らへの将来への心境
（回答者数：166）

表－4　自らの将来に対して「チャンス」「変わらない」「不安」と思う理由

カテゴリー	件数	回答例
チャンス	**18**	
社会情勢	8	これまでになかった、時代に合わせた取り組みが生まれるはずで、その取り組みの作り手になれるという意気込みがある。
学び	6	うちでいる時間が長いので、自分のことについて考え込んだ。自分能力を改善している。
進路・就職	4	新卒社員をとるのを大幅に減らしたことによっていつかその分を取らないといけなくなるためそれが近いうちに来ると思いチャンスだと思った。
変わらない	4	自分がやりたいことや従来何をしたいかはっきり分かってます。
不安	45	
就職	24	自分の就職先がどうなるのか、仕事内容どのように変わっていくのか、今までにない予想できない未来で不安を感じる。
学業・学費	6	アルバイトも少ないし、両親の仕事も厳しくなりました。だから、私の生活費共に学費は大変なこと。
健康・生活	6	自分の健康に関して心配し、母国に住んでいる親にも心配する。
社会情勢	6	「例年通り」「過去の傾向」が一切ないため、対処法や対応力などが備わっていけないだろうと思うため。
将来	3	先がわからず、不安に感じる。

注）一部、回答内の誤字を修正した。



図－7　危機的事態を乗り越える能力
（複数回答・回答者数：158）

表－5　大学生から大学生へのエール

「2020 年という年をコロナウィルスが原因で退屈に感じている人がとても多いと思います。ですが、マイナスをプラスに変えて自宅に長くいるからこそ出来ることや、考える時間が長いからこそ発見できることや考えてひらめく事もたくさんあると思います。活発に活動できる時まで今はとにかく自分の中の引き出しを沢山用意して頑張りましょう！」

「ある意味、こんな経験したくてもできないんだから、プラスに考えて行動していきましょう笑笑。」

「うまく応援出来なくてすみません。起きた事をくよくよしてる人達。批判ばかりして何もしない人達。そんな人達より、今を必死に生きる皆様が素晴らしい。新型コロナウイルスに打ち勝ちましょう。」

「コロナで中々思うような日々を送れていない方も居るとは思いますが自分が今出来ることは何かなど考えながら 1 人 1 人思いやりの気持ちを忘れず行動してもらいたいと思います。」

「コロナに負けず頑張れ。」

「コロナの影響なのに大学へ行きたいと思う。」

「こんな状況ですが、皆さんが元気であることを願ってます。どうか、感染予防に協力して検温や咳エチケットにも協力してください。マスク着用もお願いします！」

「どの状態にも笑って向かってください。」

「どんな困難があっても勇敢に立ち向かって　頑張ってください。」

「リモート授業で生徒側としては困惑していた中単位を取得出来なかったら。」

「一緒にガンバロー!!」

「皆さん､コロナウイルスの影響で色々な大変なことが起こったけどこれだけで皆の勇気が減少するわけではありません｡私たちの未来のためにこの間に一番大切なことは明るい考え方です｡絶対にあきらめないでください。」

「皆さん、頑張って！！健康プロトコルに従い、常にマスクを使用してください。」

「頑張って！」

「頑張るしかない。」

「健康があるうちに頑張りましょう。明日どうなるかな誰もわからないから今頑張りましょう。」

「今学校に行けなくても、学費、管理費、施設維持費用を気にしないで、今生活の経済的に困難だがいつかにこんな事態が抑えて、一切はよくなるんだ。」

「自分の命は自分しか守れる。その同じ、自分の未来は自分しか握れる。」（原文ママ）

「就活する方は挨拶できるようになっときましょう。」

「出来るだけ早く普通の状態に戻りたい。」

「将来のため、精一杯励んでいきましょう。」

「乗り越えましょう。」

「新しい時代に変化しつつあるなかで、その時代を作り上げていくのは私たちです。いまの取り組みが未来につながると信じて日々過ごしていきましょう。」

「大学へ行きたい。」

「大変ことや困る事など、どんなことがあっても諦めないで、一緒に頑張ってくださいね。」

「飯食って寝れるだけで満足できる気持ちで頑張ろう。」

「毎日を大事に。」

「未来って、俺は自分の未来が全く見えない　残ったのは闇だけ。」

4.　おわりに

本学では、2020 年度後期の授業開始にあたり、極力対面で授業を行っていくことになった。一部の大人数の授業科目では、教室内での密集が避けられないために引き続きリモートによる授業となったが、ゼミ・スタジオや少人数の授業科目では、建物入り口での検温、消毒液の設置および携帯用ディスペンサーの配布、換気等感染防止対策を実施した上で対面授業を開始した。
対面授業を再開するにあたり、感染不安を訴える学生もいたが、その不安を払拭するためにも十分な感染予防対策を講じた。

また、一部イベントも再開し、11 月 7 日、8 日には、定員を決めたうえで学内での大学祭を、リモート併用で実施した。授業や学内で実施したイベントを含め、学内における感染者はゼロであった。

11 月中旬に学生の感染が初めて確認され、その影響で再び講義科目についてはリモート対応となったが、ゼミ・スタジオについては対面授業を実施した。

入学者選抜においても、9 月日程の中止、海外受験生へのオンライン面接導入などの措置を講じながら、10 月以降は予定通りの日程で試験を実施している。

2021 年 1 月に入り再び緊急事態宣言が発出されたが、4 年生に対する卒業論文の個別指導は無事終了することができた。

【引用・参考文献】

電通育英会(2020)「コロナ禍に遭遇した大学生の心と行動」『IKUEI NEWS』2020 年 7 月号別冊. https://www.dentsu-ikueikai.or.jp/common/degitalbook/vol91-extra/（閲覧日 2020 年 12 月 20 日）